

ことば	読み	出現頻度	レベル	品詞	例文	備考
流暢	りゅうちょう	8	級外	名詞・ な形容詞	鈴木さんは流暢(りゅうちょう)なドイツ語を話す。／鈴木さんは流暢にドイツ語を話せる。／鈴木さんのドイツ語は流暢です。	名詞として使うときは「流暢」よりも「流暢さ」を使うほうが多い。
非流暢	ひりゅうちょう	15	級外	名詞・ な形容詞	母語話者でもアナウンサーのようにすらすらとは話せません。誰もが多かれ少なかれ流暢ではない、つまり非流暢(ひりゅうちょう)です。	「流暢」の対義語。
パターン	パターン	10	N2N3	名詞	①この問題の解き方は3パターンあります。②部屋の壁紙(かべがみ)にパターンを生かすことで、アクセントが生まれます。	①種類、②柄(がら)という意味。「ワンパターン」というのは、いつも同じという意味の和製英語である。いつも変わらないことを否定的に言う。「この作家の小説は展開がワンパターンで、つまらない。」
話し手	はなして	3	級外	名詞	話し手の話そうとする意欲は聞き手の態度によって変わってくる。聞き手の「聞く力」が影響する。	対義語は「聞き手」。「話者」も同じ意味だが、「話者」の方が書きことば的。
フィラー	フィラー	6	級外	名詞	「フィラー」というのは、「あの」「ええと」「まあ」など、発話の合間にはさみこむことばのことをいう。	
発する	はつする	3	級外	名詞	①この事件はささいな口論に端(たん)を発し、人が亡くなる大きなものに発展してしまった。②被害者が声を発することができるサポートが必要である。熟した果実が香りを発している。③使いを発した。	講義では他動詞だが、自動詞の用法もある。
発話	はつわ	37	級外	名詞	発話の意図を分析する。	「発話」とは話す行為とその音声のことを指す。
こま切れ	こまぎれ	21	級外	名詞	①こま切れの知識しかないので、この問題の全体像がわからない。②こま切れ肉を使って、炒め物を作った。	漢字で書くと「細切れ／小間切れ」である。細かく切ったものや切れ端(はし)のこと。
助詞	じょし	15	NI	名詞	助詞の「は」と「が」の使い分けが難しい。	「格助詞(かくじょし)」は、助詞「は/が/の/と/に/で」など、名詞について、文中で他の語とどのような関係にあるかを示すものである。
連文節	れんぶんせつ	2	級外	名詞	連続した二つ以上の節が一つにまとまった節を連文節と言います。	
イントネーション	イントネーション	5	級外	名詞	イントネーションによって話し方から受ける印象がぐっと変わります。	アクセントとイントネーションはよく混同されますが、異なるものですので注意してください。
末尾	まつび	4	級外	名詞	手紙の末尾に小さくハートが描いてあった。	
跳躍	ちょうやく	17	級外	名詞・ する動詞	バレーボールやバスケットボールでは、背が高い選手が有利だが、背が低くても跳躍力(ちょうやくりょく)があれば活躍(かつやく)できる。	「跳躍(ちょうやく)」「飛躍(ひやく)」どちらも「飛び上がること」を指すが、「飛躍(ひやく)」には「プロ選手として大きく飛躍(ひやく)する(進歩・向上する)」「論理が飛躍(ひやく)する(段階をふまずに急に大きく飛ぶ)」という意味もある。
上昇	じょうしょう	18	NI	名詞・ する動詞	この文のイントネーションは上昇調だ。／物価が上昇している。	「上昇」の対義語は「下降(かこう)」または「低下」。
下降	かこう	24	N2N3	名詞・ する動詞	この文のイントネーションは下降調です。／景気が下降している。	「下降」の対義語は「上昇(じょうしょう)」。
文末	ぶんまつ	12	級外	動詞	文末に置いて、文を完結させる助詞を「終助詞」という。	「低下」は①「室温が低下する(低くなる)」という意味のほかに、②「視力／成績が低下する(悪くなる)」もある。①の対義語は上昇、②は向上。
文節	ぶんせつ	10	級外	名詞	日本の学校文法では、文節を区切る方法として、助詞「ね」をつけるように教えられる。	対義語は「文頭」。「文頭／文中／文末」は一文の中における位置を表す。
音調	おんちょう	6	級外	名詞	①この曲は音調の変化が激しく、奏者には技術が必要だ。②悲しい音調の曲③話しことばにおける「音調」の特徴にはイントネーションやアクセントがある。	
文中	ぶんちゅう	4	級外	な形容詞	マニュアルの文中の指示に従って同じように操作をすれば必ず使えるようになるはずだ。	
判定詞	はんていし	17	級外	名詞	「判定詞」とは、「だ」「である」「です」などで、名詞と結合して述語を作る機能を持っています。	「判定詞」は他にも、「繫辞(けいじ)」「コンピュータ」などとも言います。
切れ目	きれめ	11	NI	名詞・する 動詞	①この袋には切れ目がありませんが、力を上手に入ればどこからでも切れます。②対向車の列の切れ目を待って、右折します。③段落は文章における内容の切れ目で、パラグラフのことをいいます。④「金の切れ目が縁の切れ目」ということわざがある。	①切れた／切った結果のこと、②③続いていたものがとぎれるところ、④物や関係が終わるという意味がある。
平板型 アクセント	へいばんがた アクセント	6	級外	名詞	名詞「いっぱい」は平板型アクセントの言葉で、音調が高くなっても低く下がらないという性質を持っています。	日本語のリズムは拍という単位で数えられます。そして、日本語は高低アクセントです。それぞれの拍の上下の組み合わせによって、平板型、頭高型、中高型、尾高型があります。